

	<b>佐世保市立清水中学校</b>				
	所在地	佐世保市万徳町9番7号			
	校長	榎尾 吉嗣			
	生徒数	268名	学級数		

## 1 テーマ 豊かな心の育成と確かな学力の向上を目指して

## 2 目的

豊かな心の育成と確かな学力の向上を目指して

- (1) 生徒同士のコミュニケーションや保護者・地域とのふれあいをもち、生徒の豊かな心の育成を目指す。
- (2) 美しい学校づくりのための環境整備を行う。
- (3) 学力向上のため、教材・教室環境の整備、体験学習を行う。
- (4) 人権学習、進路学習を中心に総合的な学習時間の充実を図る。

## 3 実践内容

### (1) 豊かな心を持った生徒の育成

#### ① 「総合的な学習の時間」でプロフェッショナルによる講話の実施

- ・命の大切さについて考え、自分の体や人の体を大切にできる態度を養うために、学年ごとに「性教育講演会」を実施。性についての正しい知識を身に付け、一人ひとりが責任と思いやりのある行動ができるように講話をいただいた。
- ・「思春期バンザイ！～清水中の子最高！子どもたちに伝えたいこと～」というテーマで熊丸みつ子先生をお招きして講演をいただいた。●どんな子もいろいろな失敗や困りごとがあるのは順調に育っている証拠●泣く・抱っこ・笑顔 3つの愛情を注いでもらうから子どもの心が育つ●1人ひとりの命は、奇跡の連続から生まれた●自分の命も人の命も大切にしなければならない という内容での熊丸先生の講演は、どんどん生徒の中に入って行って質問し、生徒に語り掛けるスタイルで生徒も保護者もお話の内容に引き込まれていった。また、保護者や職員の中には、子育てや命にかかわるお話を聞いて涙を流している場面もあった。講演会後も熊丸先生の控室へ子どもたちが押しかけてハグを求めて、それに先生も優しく応じている姿が印象的であった。

#### ② 「気づき、考え、実行する」JRC活動の推進

- ・JRC（青少年赤十字）加盟とJRC委員会の活性化
- ・あいさつ運動、各種募金の呼びかけ
- ・「VS（ボランティア・サービス）活動」の充実
- ・「福島ひまわり里親プロジェクト」への参加

今年度、東日本大震災から15年を迎える。あの震災とその後の福島のことを忘れず、思い続けることも復興の支援であると考え、継続して「福島ひまわり里親プロジェクト」に参加している。この活動は、福島の事業所からひまわりの種を購入し、清水中学校で栽培し、それによって採れた種を福島へ送り返すという活動である。JRC委員を中心にボランティアを募り、生徒たちでひまわりの種を採集・選別した。福島とのつながりや東日本大震災を忘れないためにも今後も継続していきたい。



### ③美しい学校環境づくり

- ・「校内環境づくりプロジェクト S」の実施

このプロジェクトの趣旨は、育友会が中心となって本校に必要な貢献をしたいということから、その時に必要な活動を模索して活動内容を決定することになっている。今年度は、保護者から「生徒が2学期に登校する前にきれいにしておきたい」との声が上がり、8月26日の夕方に教室や廊下等の清掃を行った。

### ④潤いのある環境作り運動

- ・学校職員と連携し、季節ごとに咲く花を栽培して、それを校舎内外に設置している。入学式や卒業式の際にも、栽培した花々で新入生や卒業生を祝っている。朝から、挨拶運動に参加する生徒たちや生徒会役員が水やりを行っている。四季折々の花が咲き、登校する生徒たちを迎えるだけでなく、来校された方々も温かく迎える雰囲気ができている。

## (2) 学力向上のための教材の整備

- ①多数の事業所に協力いただき、職場体験学習を実施できた。

- ②「学びの廊下」を活用し、朝や休み時間、放課後の自主学習の活性化に繋がった。さらに職員室前に、長机と椅子を設置して、生徒たちが自主的に学習できる環境を整備した。

- ③新聞コーナーの設置（学びの廊下に一般紙 3紙と小学生新聞、中高生新聞）

3紙（地元、地方、全国）の新聞を生徒に提供することで、新聞記事の違い等を知ることができるようにした。



## 4 成果

- (1)「プロフェッショナルによる講話」では、様々な専門分野の方々からの話で、生徒の視線も釘付けになるほどの熱い講演が続き、命の大切さや将来に向けての自分自身の変革など多くのことを学ぶ機会となった。来年度も、引き続き多くの方からの講演をいただき、生徒たちの自己啓発に繋げていきたいと感じた。

- (2) JRC の活動も12年目を迎え、「福島ひまわり里親プロジェクト」等の活動を通して「気づき、考え、実行する」生徒の自主的な活動に努めることができた。また、決められた活動だけでなく、生徒主体の活動ができたことは今後の JRC 活動の発展にも寄与した。

- (3) 新校舎においても、職員室前に「学びの廊下」を設置していただいた。新校舎では、予め長机が設置してあり、多くの生徒が使いやすさを実感していることから、テスト前だけでなく、朝早くから利用したり、放課後の教師への質問の場に利用したりしているなど多くの生徒が「学びの廊下」を利用している。

## 5 今後の課題

新校舎の供用および旧校舎の解体によって、一旦は落ちついた学校環境となった。今後は外部から演劇や演奏の鑑賞をお招きして情操教育の推進を考えていく必要がある。

また、今年度まで取り組んできた「福島ひまわり里親プロジェクト」を10年以上継続している記念として、ひまわり柄の張り子をいただいた。このプレゼントによってボランティア活動のすばらしさを生徒の中に広げることができ、その姿勢が生徒会執行部にもつながり、自ら企画して活動幅を広げようとする姿も見られたので、今後も継続した活動となっていけば、より心豊かな生徒が増えると信じている。

